



世界農業遺産 をめざす 徳島・剣山の傾斜地農耕システム

GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS

在来農業が世界から 観光客を導く

にし阿波の農業文化観光の可能性

2016.2/9 火 14:00～(受付：13:30～)

会場：東みよし町三好東部福祉センター2階 大会議室

13:30～受付

【第1部】

14:00～14:20 ごあいさつ 兼西 茂(徳島剣山世界農業遺産推進協議会会長、つるぎ町長)
川原 義朗(徳島剣山世界農業遺産推進協議会副会長、東みよし町長)

14:20～14:35 趣旨説明 内藤直樹(徳島大学 総合科学部 准教授)

14:35～15:05 「宿泊で国内外から地域へ人を呼び込む」
保坂 行徳(合同会社ライフアップグレイド 代表)

15:05～15:35 「直島の魅力を活かしたまちづくり」
山岸 正明(島小屋オーナー/直島町地域おこし協力隊)

15:35～15:45 休憩

【第2部】

15:45～16:40 パネルトーク
「にし阿波の農業観光の未来に向けて」

コーディネーター：内藤直樹(徳島大学 総合科学部 准教授)

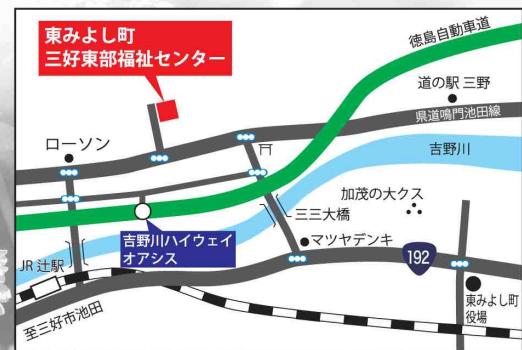
パネリスト：講演者全員、出尾宏二(一般社団法人そらの郷 次長)

平野重秋(西庄良所会 会長)

松浦英人(東みよし町役場 産業課 主査)

【主催】徳島剣山世界農業遺産推進協議会 【共催】徳島大学

世界農業遺産とは、世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機構(FAO)が認定する仕組みです。にし阿波の山間部で暮らす人々とは、急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人々が培ってきた農業や土地利用に係るユニークな知識・技術・生徒・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい環境や多様な動植物を育んできました。このシンポジウムでは、にし阿波地域で培われてきた在来農業やそれに付随する農文化について、観光資源としての活用方法を考えます。在来農業で修学旅行受入や外国人誘客など、地域社会の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。



アクセス

東みよし町「三好東部福祉センター」

徳島県三好郡東みよし町辰巳28

【公共交通機関】JR徳島線・辻駅下車 3.2km

【車・自動車道利用】徳島自動車道吉野川スマートICから北に約1.5km

・一般道利用：県道鳴門池田線三三大橋北詰より約3km

お問い合わせ

徳島県美馬郡つるぎ町真光字東浦1-3

徳島剣山世界農業遺産推進協議会(つるぎ町役場商工観光課内)

TEL0883-62-3111 FAX0883-55-1051

syoukou@town.tokushima-tsurugi.lg.jp

在来農業が世界から観光客を導く

にし阿波の農業文化観光の可能性

2016. 2/9 火 14:00～(受付：13:30～)

会 場：東みよし町三好東部福祉センター 2階 大会議室

参加費：無料

古くは“ソラ”とよばれたにし阿波の山間部で暮らす人びとは、ときには斜度30度以上にもなる急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人々が培ってきた農業や土地利用にかかるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多種多様な動植物を育んできました。近年では修学旅行の目的地としてにし阿波が注目され、年間3000人以上の生徒が農家民宿を体験しています。また、東洋文化研究家のアレックス・カ一氏が祖谷を「桃源郷のような別世界」と表現し世界に発信したように、日本はもとより世界からも注目を集めています。世界各地では在来農業や文化に基づく観光開発や文化運動が盛んになっています。このシンポジウムでは、にし阿波地域で培われてきた在来農業やそれに付随する農文化について、観光資源としての活用方法を考えます。そして在来農業を地域社会の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。



京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士（地域研究）。国立民族博物館期間研究員などを経て、現職ケニア・ウガンダ・南スーダン・ソマリアの牧畜社会を対象に、地域で培われてきた知恵、わざ、価値観等にそくした開発・平和構築・難民支援のあり方に関する研修を行ってきた。著書に、『社会的包摶／排除の人類学：開発・難民・福祉』（共著）、『メディアのフィールドワーク』（共著）などがある。

内藤 直樹（徳島大学 総合科学部 准教授）



千葉県出身。2003年に初めて訪れた大歩危・祖谷の自然に魅かれ、即移住。2004年に空き遊を開業。ゲストハウスや民宿において、国内での先駆者となる。2014年に合同会社ライフアップグレイドを起業し、地域再生や講演など、様々な活動に取り組んでいる。三好市池田町に空き店舗再生事業COCO-CROSSをオープンしている。

保坂 行徳（合同会社ライフアップグレイド 代表）



東京都出身・香川県直島町在住。大学卒業後大手マンションディベロッパーにて、不動産開発、建築企画、デザイン、リノベーション事業の責任者を勤める。2015年に直島へ移住。「島小屋 | BOOK CAFE & TENT STAY」の運営と同時に、直島町に地域おこし協力隊を導入し「NAOSHIMA COLORS」のディレクションを行っている。

山岸 正明（島小屋オーナー/直島町地域おこし協力隊）



平成20年、にし阿波観光圏の認定に関わる。現在は「一般社団法人そらの郷」事務局次長として教育旅行の受入、着地型旅行商品の開発を行っている。観光庁観光地域づくりマネージャーとしても活動中。

出尾 宏二（一般社団法人そらの郷 次長）



旧西庄小学校を拠点に地域活性化や観光交流活動を行っている団体である西庄良所会の会長。東みよし町西庄地区の歴史的、伝統的な生活文化や自然環境などの地域資源を守り、次世代へ継承するために、周辺7自治会の住民で組織されている。

平野 重秋（西庄良所会 会長）



東みよし町産業課で10年間観光担当として、にし阿波観光圏の設立から携わる。観光庁観光地域づくりマネージャー。プライベートでは、農文化である「金丸八幡神社宵宮神事」や、阿波踊り連の連長として郷土芸能振興に携わるなど、公務と地域活動の両面から、観光地域づくりを行なっている。

松浦 英人（東みよし町役場 産業課 主査）



世界農業遺産
GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS
GIAHS